

大槌発

「牡蠣ノ星」建設

生牡蠣や海鮮料理と白ワインなどのお酒を楽しむことのできる飲食店「オイスターバー」を全国展開するヒューマンウェブ(吉田秀則



社長・盛岡出身)が、大槌町にカキの加工センターとレストランを併設した複合施設「大槌・牡蠣ノ星」を建設することになり、大槌町と立地協定を締結しました。オイスターバー業界最王手のヒューマンウェブは、首都圏や大阪などに23店舗を展開。大槌町でも、レストランと直売所が併設される計画となっています。吉田社長は「我々の会社はカキのお陰で今がある。そのカキで恩返しができればと思っています」と話していました。震災以降、大槌町への県外からの企業誘致は初めてで、事業費は約9億円、来年度中の完成を見込み、従業員は地元での採用を予定しています。生産や加工そして消費まで行う、国内でも有数のカキの拠点となる見通しです。(10/9 ニュースエコー)

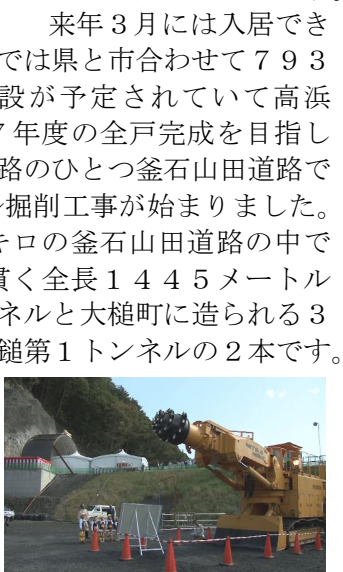
宮古 & 釜石・大槌発

復興関係工事・2題



(写真は完成予想図) 宮古市では災害公営住宅の工事が始まりました。着工したのは宮古市高浜地区に市が整備する災害公営住宅で2DKと3DK、合わせて12戸が造られます。来年3月には入居できる予定です。宮古市全体では県と市合わせて793戸の災害公営住宅の建設が予定されていて高浜地区を皮切りに平成27年度の全戸完成を目指します。また、三陸沿岸道路のひとつ釜石山田道路で釜石・大槌間のトンネル掘削工事が始まりました。着工したのは全長23キロの釜石山田道路の中で釜石と大槌の間の山を貫く全長1445メートルの仮称・鶴住居第2トンネルと大槌町に造られる309メートルの仮称・小槌第1トンネルの2本です。2年後に完成予定で、工事で発生した土砂は津波浸水地のかさ上げ工事に使われます。(10/10 ニュースエコー)

宮古市では災害公営住宅の工事が始まりました。着工したのは宮古市高浜地区に市が整備する災害公営住宅で2DKと3DK、合わせて12戸が造られます。来年3月には入居できる予定です。宮古市全体では県と市合わせて793戸の災害公営住宅の建設が予定されていて高浜地区を皮切りに平成27年度の全戸完成を目指します。また、三陸沿岸道路のひとつ釜石山田道路で釜石・大槌間のトンネル掘削工事が始まりました。着工したのは全長23キロの釜石山田道路の中で釜石と大槌の間の山を貫く全長1445メートルの仮称・鶴住居第2トンネルと大槌町に造られる309メートルの仮称・小槌第1トンネルの2本です。2年後に完成予定で、工事で発生した土砂は津波浸水地のかさ上げ工事に使われます。(10/10 ニュースエコー)



山田発

新魚市場完成



震災で被災した山田町に新しい魚市場が落成しました。新しい魚市場は津波で全壊した旧魚市場の南側に1メートルほどかさ上げして

総工費4億6700万円をかけ建設されました。広さは2640平方メートルと旧魚市場の半分ほどです。きょうはさっそく真新しい市場にイカやイナダなどが水揚げされ初せりも行われました。山田漁連の生駒利治会長は「これからサケ漁が本格化します。市場の活況を山田町の復興につなげていきたい」と話していました。(10/10 ニュースエコー)

陸前高田発

飛行船がやってきた

ドイツに本社がある製薬会社が創立150周年を記念して造られた飛行船「バイエル号」が、日本の元気と希望を世界に伝えようと



陸前高田市にやってきました。今年3月から世界5大陸を回っていて日本では最初に陸前高田市にやってきました。飛行船は全長41メートル、招かれた子供たちはその大きさに圧倒されながらゴンドラ内を見学し、飛行船が飛ぶ仕組みを学んでいました。復興に向けて歩みを進めていく上空からの街の姿は、製薬会社のホームページを通じて世界に発信されるということです。(10/15 ニュースエコー)

大槌発

さんりく元気ラジオ

今週はおおつちさいがいFMの「はやっち」こと小松隼人さんが、愛知県の女性が大槌町に遺産7000万円を寄付した話題を伝えてくれました。被災した子供たちのために役立てて欲しいと寄付したもので、奨学制度に利用されるという事です。また盛岡出身でオイスターバーを全国展開している男性が、大槌にもレストランを作るという話題や、「大槌の海は今!？」と題して開かれた東京大学大気海洋研究所公開講座に参加した話などを伝えてくれました。(10/16)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122